

東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携の概要

I【策定方針】

- <位置付け> 県、市町村、東三河広域連合、各種競技団体、経済関係団体、観光関係団体、大学、民間事業者、NPO等が連携・協働して展開する実施計画。
- <策定主体> 東三河ビジョン協議会（県、東三河の8市町村、東三河広域連合、経済関係団体、大学等で構成）
- <計画期間> 平成30年度から平成32年度までの3年間

II【現状と課題】

○現状

- 平成26年度に策定した主要プロジェクト推進プラン「スポーツ大会を活かした地域振興」に沿って取組を進め、新たなスポーツ大会の開催など数値目標を概ね達成。世界・全国レベルのスポーツ大会等を中心に、多くの競技者や観戦者が東三河を訪れており、宿泊、飲食、地域産品の購入等につながっている。
- 公益社団法人豊橋青年会議所が、東三河8市町村の住民を対象に「東三河住民意識調査」を実施。スポーツに対する意識として、以下の傾向が見られた。
 - ◆東三河のセールスポイントとして「山や川や海でスポーツが体験できること」を挙げる人は、「祭り」や「食」に劣らず多い。
 - ◆スポーツを「する」人に比べ、「みる」ことで楽しむ人は少ない。

世界・全国レベルのスポーツ大会とプロチーム（以下「スポーツ大会等」という。）

三遠ネオフェニックス（豊橋市、豊川市）、セーリング世界大会（蒲郡市）、新城ラリー（新城市、県）、奥三河パワートレイル（新城市、設楽町、東栄町、豊根村、県）、サーフィン世界大会、全日本級別選手権大会（田原市）

○課題

- 課題1 スポーツを地域の強みとして根付かせる。
 - 住民が様々な形でスポーツを楽しむ機会の創出、地域内外と交流する機会の提供、新たな産業の創出などに取り組むことにより、スポーツを地域の強みとして根付かせる必要がある。
- 課題2 スポーツが身近にある東三河のイメージを発信する。
 - スポーツイベントの展開と連動しながら、地域が連携して東三河の魅力や暮らしやすさを発信する必要がある。

III【目標】

住民が様々な形でスポーツを楽しむ機会を創出するため、次の3つの数値目標を設定

目標1 スポーツ大会の参加者数

<現状> (H29年) 約10%増加 30千人 → <目標> (H32年) 33千人

目標2 スポーツ大会の観客数

<現状> (H29年) 約5%増加 172千人 → <目標> (H32年) 180千人

目標3 スポーツ大会のボランティア数

<現状> (H29年) 約10%増加 7千人 → <目標> (H32年) 8千人

IV【2つの方針と5つの主な取組】

1 世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かして地域をもっと盛り上げる

(1) 絆を深める

- ①スポーツを「する人」「みる人」「ささえる人」が触れあう機会の創出
- ②ボランティアによる大会運営のサポート
- ③世界・全国レベルのスポーツ大会の誘致、開催
- ④合宿の誘致、宿泊のあっせん

(2) 裾野を広げる

- ①大規模スポーツ大会の誘致・開催 ②地域で連携して大会開催をPR
- ③SNSによる情報発信 ④スポーツツーリズムの推進

(3) 快適な環境をつくる

- ①競技施設の整備 ②観戦者に快適な設備の導入
- ③スポーツ観戦を通じたコミュニティづくりを応援

2 「極上のスポーツフィールド・東三河」のイメージを拡散する

(1) 豊かなスポーツ環境を活かしたスポーツツーリズムの推進

- ①スポーツを観光資源として積極的に活用
- ②経済効果の明確化 ③参加者や観戦者への地域PR

(2) 情報拡散に向けた仕掛け

- ①地域で連携して大会開催をPR
- ②東三河の暮らしやすさの発信

V【推進体制等】

<推進体制>

○各主体がそれぞれの取組を着実に推進

<推進プランの進捗状況の把握及び見直し>

○県、市町村、東三河広域連合が関係団体と連携・協力しながら、毎年度、進捗状況の把握及び評価を実施し、東三河ビジョン協議会へ報告

○東三河ビジョン協議会において、社会経済環境の変化を踏まえて、随時ローリングを行い柔軟に見直し

VI【平成29年度先導事業】

東三河スポーツツーリズム検討事業（愛知県事業）

- ・スポーツ大会の参加者や観戦者に対し、スポーツ大会前後の東三河の楽しみ方を発信するとともに、各種大会等のPRを実施。若者に人気のインフルエンサーを起用し、インスタグラムで旅の様子を紹介。